

トビウオ通信 (R1 第 9 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《令和元年夏の漁況を振り返って》

今号は島根県の夏の漁業として代表されるばいかご漁業、あなごかご漁業、しいら漬け漁業、とびうお漁について、今漁期の漁況を振り返ってみます。なお、平年値は過去 5 年平均を用いています。

ばいかご漁業 1 隻当たり漁獲量・水揚金額 平年を上回る

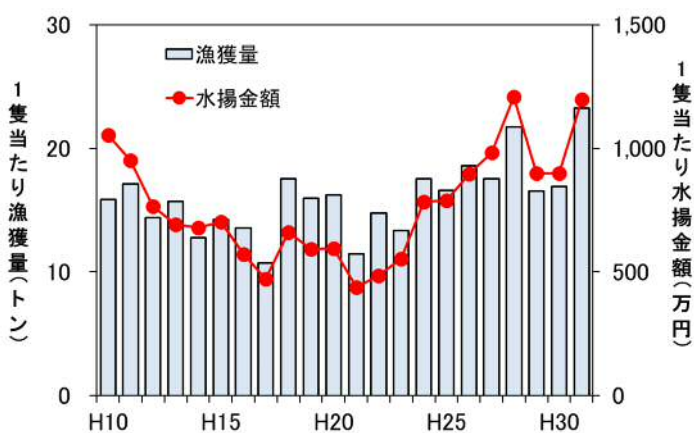


図 1 石見地域ばいかご漁業におけるエッチュウバイの 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

石見地域のばいかご漁業は小型底びき網漁業の休漁期（6～8 月）に、日御碕沖から浜田沖の水深 200m 前後の海域で操業されています。

今期のばいかご漁業における総漁獲量は 79 トン、総水揚金額は 4,020 万円で、漁獲量は平年の 1.1 倍、水揚金額は平年とほぼ同様でした。漁獲の主体であるエッチュウバイ（地方名：白バイ）の漁獲量は 70 トン、水揚金額は 3,596 万円でした。図 1 にエッチュウバイの 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の推移を示しました。1 隻当たり漁獲量は 23 トン、水揚金額は 1,199 万円で、漁獲量は平年の 1.4 倍、水揚金額は 1.5 倍と平年を大きく上回りました。1 隻当たりの漁獲量は平成元年以降で最も高くなりました。平成 22 年以降、1 隻当たりの漁獲量、水揚金額ともに増加傾向を示し

ており、平成 29、30 年は一旦減少しましたが、今年は増加へと転じました。

操業隻数の減少による漁獲圧の低下や平成 28 年には大きな資源の加入が確認されており、現在のエッチュウバイの資源は高水準にあると考えられます。

あなごかご漁業 1 隻当たり漁獲量 平年を上回る、水揚金額 平年並み

島根県はアナゴ類の漁獲量が全国第 1 位（平成 30 年農林水産統計）であり、その多くは底びき網漁業によって漁獲され、次いであなごかご漁業で漁獲されます。あなごかご漁業は夜間に活動が活発になるアナゴの習性

を利用して、夜間に餌を入れた漁具を設置して漁獲します。

本漁業は、主に小型底びき網漁業の休漁期に石見地域で行なわれることから、6～8 月を対象にまとめました。

今期の石見地域におけるアナゴ類の水揚げ状況は、漁獲量が 36 トン、水揚金額は 2,849 万円で、漁獲量は平年の 1.3 倍、水揚金額は平年の 1.1 倍でした。1 隻当たりの漁獲量は 7 トン、水揚金額は 570 万円で、漁獲量は平年の 1.6 倍と増加しましたが、単価が低くなったため、水揚金額は平年並みに留まりました（図 2）。

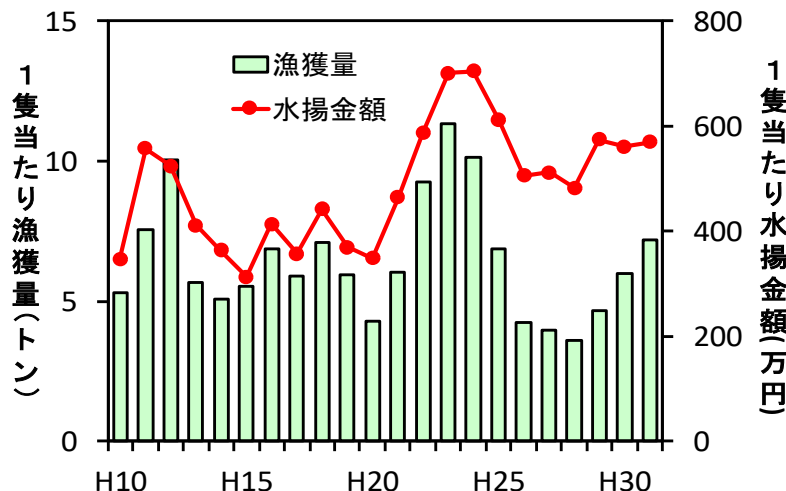


図 2 石見地域のあなごかご漁業の 1 隻当たり漁獲量と水揚

しいら漬け漁業

1 隻当たり漁獲量・金額 平年を上回る

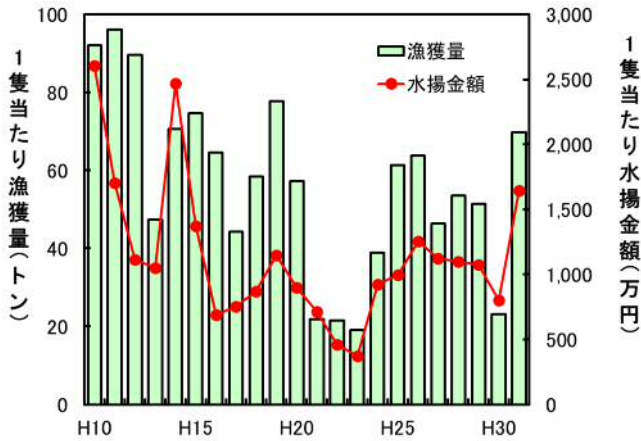


図3 石見地域のしいら漬け漁業の1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

魚種毎の漁獲動向をみるとシイラの1隻当たりの漁獲量は年変動が大きいものの近年40~60トンで推移し、今期の1隻当たりの漁獲量は41トンで平年の9割でした。

一方、ヒラマサの1隻当たりの漁獲量は平成14年に37トンの漁獲があって以降、数トン程度で推移していましたが、今期の漁獲量は27トンで平年の7.7倍と平成14年に次ぐ水揚げとなりました(図4)。

シイラ等の回遊魚は物陰に寄り添ったり、集まる習性があります。この習性を利用した漁法がしいら漬け漁業です。漬木(つけぎ)と呼ぶ竹の筏を海面に浮かべ、筏の影に集まった魚を網で漁獲するまき網の一種です。現在は、隠岐地域、石見地域で夏季~秋季にかけて行なわれており、小型底びき網漁業の休漁期に操業を行なう石見地域がその中心となっています。今期(6~10月)の石見地域における水揚げ状況は、総漁獲量が279トン、水揚金額は6,588万円でした。1隻当たりの漁獲量は70トン、水揚金額は1,647万円で、漁獲量は平年の3.0倍、水揚金額は平年の2.0倍でした(図3)。

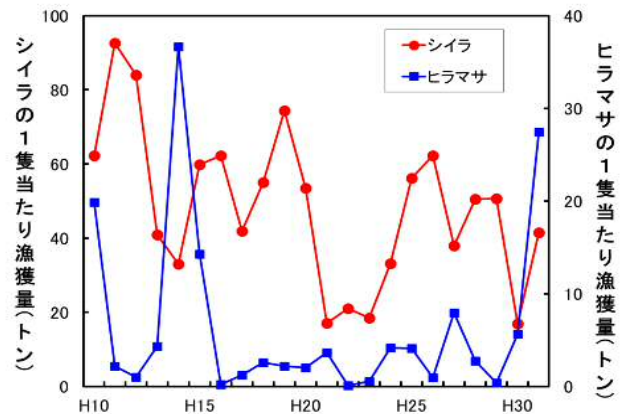


図4 シイラとヒラマサの1隻当たりの漁獲量の推移

とびうお漁

漁獲量・水揚金額 平年並み

トビウオ類は、冬の間は南方で生活し、初夏になると産卵のため山陰沿岸に回遊してきます。本県沖合には5月から7月頃に来遊し、刺網、定置網、船びき網、まき網などの様々な漁法で漁獲されます。本県で漁獲されるトビウオ類は、主にツクシトビウオ(地方名:角アゴ、角トビ、大目)とホソトビウオ(地方名:丸アゴ、丸トビ、小目)の2種類です。トビウオ類は県下全域で漁獲されますが、主要港の5~8月を対象に集計しました。

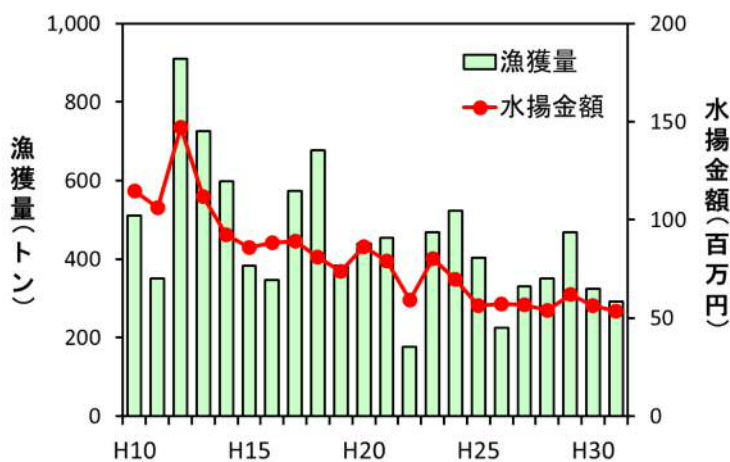


図5 主要港におけるトビウオ類の漁獲量と水揚金額の推移(5~8月集計)

主要港におけるトビウオ類の水揚げ状況(図5)は、漁獲量が292トン、水揚金額が5,335万円で、漁獲量、水揚金額ともに平年の9割となりました。また地区別では、出雲地域が146トンで平年の7割、石見地域が116トンで平年の1.3倍、隠岐地域が28トンで平年の5割の水揚げとなり、隠岐地域での減少が顕著でした。

主な漁業種類別の漁獲量は、定置網が214トン、とびうおまき網が61トン、刺網が4トン、船びき網が4トンでした。また、魚種別の漁獲量は、ホソトビウオが221トン、ツクシトビウオが70トンで、ホソトビウオが多く漁獲されていました。